

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	ムライティブ県において、紛争によって崩壊したコミュニティが再建され、また帰還漁民の生活が向上する。 コミュニティセンターで行っているプログラムの実施によって住民同士の交流が増え、住民組織の活動が活性化して、センターを建設した3村のコミュニティ再建に寄与している。
(2) 事業内容	コミュニティセンターのプログラムを通じたコミュニティの再建支援、セリ場建設を通じた生活再建支援ともに、事業はおおむね予定通りに進行している。 (ア) コミュニティの再建支援 ① コミュニティセンターを利用した各種プログラムの実施 ● 本事業1年次から継続して、以下のプログラムを、コクトルワイ村、コクライ村、コーヴィルクディルプ村の3村のコミュニティセンターで実施している。 ・コクトルワイ村 ◇ 就学児童を対象とした課外授業：週4日 ◇ 成人を対象としたコンピュータ教室：週3日 ◇ 女性を対象とした啓発講習：月1日 ・コクライ村 ◇ 就学児童を対象とした課外授業：週6日 ◇ 女性を対象とした啓発講習：月1日 ◇ 児童を対象としたタミル語、シンハラ語教室：週1回 ・コーヴィルクディルプ村 ◇ 児童を対象とした英語教室：週2日 ◇ 成人を対象とした英語教室：週2日 ◇ 成人を対象としたシンハラ語教室：週1日 ● プログラム運営にあたり、各村で組織した運営委員会によって建物、会計の管理が適正に行われていることをパルシックススタッフが月に1度確認している。 ● 当団体が実施している上記プログラムの他、村長事務所、住民組織の月例会議、住民向けの移動診療所にもセンターの部屋が利用されている。 (イ) 生活再建支援 ① セリ場の建設 ● 2014年10月、カルナドゥカーニ村、カラパドゥ・ノース村2村の漁民に対し、現在の漁獲の販売方法の聞き取りおよびセリの仕組みの説明を行った。 ● 2015年2月、カルナドゥカーニ村、カラパドゥ・ノース村の2村でセリ場の建設を開始。建設作業には、地域住民も労働者として参加できるよう、建設会社と契約を結んだ。 ● 事業内容を変更し、現在、小規模な小屋以外に漁協の建物がないワトウワハル村に、漁協の会合、養殖資材の準

	備に使える建物を建設することを、漁協と協議して決定した。 ② 「獲る漁業」から「育てる漁業」への移行 ● 2015 年 2 月、日本からの専門家、北窓時男氏を派遣し、マリタイムパットゥ郡での漁業の実態、養殖の可能性の調査を行った。調査の結果、3 年次に行う養殖の候補地・魚種を以下に定めた。 1) エビ畜養：ナンディカダルラグーン 2) カニ畜養：コクライラグーン 3) 魚養殖：コクライ村、チェマライ村の池、タンニムリプタンク (添付書類②参照)
(3) 達成された効果	(ア) コミュニティの再建支援 (1) センターの目的に沿ったプログラムが住民によって月 15 日以上実施されている。 ⇒1 月時点で、コクトルワイ村 14 日、コクライ村 21 日、コーヴィルクディルプ村 11 日のプログラムが実施されている。 (2) 住民組織による会議が定期的に実施されるようになる。 ⇒センターを利用し各村で、漁協、農協、村落開発女性委員会、青年クラブの定例会議が実施されている。 (3) センター近隣世帯の児童の 50%以上がプログラムに参加する。 ⇒各村、就学児童の 30%～70%が定期的にプログラムに参加している。 (4) コクライ村で、多民族によりセンターが使用され、民族間のコミュニケーションが生まれる。 ⇒シンハラ・タミル両民族の子供を対象とした英語教室が実施されているほか、シンハラ語・タミル語の教室も行われており、センターの活動を通して両民族の子供の間でのコミュニケーションが生まれている。 (5) コクライ村で、タミル人・シンハラ人を対象とした子供向けプログラムに両民族から 30%以上が定期的に参加する。 ⇒子供向けプログラムに、両民族の就学児童の 50%以上（各約 50 名）が定期的に参加している。 (6) 食品加工、縫製等の技術研修を通して、4 村で各 10 名以上の女性が定期的に収入を得られるようになる。 ⇒コクライ村で縫製研修を受けた女性たち（15 名）が、習得した技術を通して収入を得られるようになった。 (月平均 1,500 ルピー) (7) コンピュータクラスの受講者の 75%以上が修了後政府

	公認のコンピュータ資格を得る。 ⇒コクトルワイ村で実施したコンピュータ教室参加者 22 名のうち、9 名が全コースを終了し、3 月に政府公認の試験を受験する。 (イ) 生活再建支援 (1) 漁協がセリ場運営を通して月額 4,000 ルピーの収入を得る ⇒セリを通して収入が入る仕組みをカルナドゥカーニ、カラパドゥ・ノースの両漁協と協議し、漁獲の販売方法、手数料の金額を決定した。セリ場完成後、セリを通して漁協に月額 4,000 ルピー以上の収入が入ることを目指す。 (2) 3 年次の養殖、畜養実施計画が決定している。 ⇒養殖、畜養実施計画を添付書類の通り作成した。
(4) 今後の見通し	(ア) コミュニティの再建支援 ① コミュニティセンターを利用した各種プログラムの実施 ● 各村で実施しているプログラムを継続すると同時に、事業 3 年次終了時点には運営委員会が自立的にセンターを運営できるよう、継続して指導を行う。 (イ) 生活再建支援 ① セリ場の建設 ● 新たに漁協の休憩施設建設地として追加したワトゥワハル村での建設を 2015 年 3 月に開始。2015 年 5 月に完成予定。 ● 2015 年 5 月にカルナドゥカーニ村、カラパドゥ・ノース村でのセリ場の建設終了予定。3 月に、各村の漁協を対象としてセリ場の運営に関する 2 日間の研修を実施する。 ● セリを通して漁協の収入が向上するよう指導を行う。 ② 「獲る漁業」から「育てる漁業」への移行 ● 養殖・畜養候補地として選定した漁協のメンバーを対象に、持続可能な漁業に関するワークショップを実施する。 ● 3 年次に行う養殖、畜養に関して、別紙計画に沿って実施の準備を行う。